



民鉄協ニュースNo. 2

2026年5月28日

大手民鉄16社 2026年3月期 決算概況および鉄軌道事業旅客輸送実績

一般社団法人日本民営鉄道協会（事務局：東京都千代田区、会長：杉山 健博）では、大手民鉄16社（東武・西武・京成・京王・小田急・東急・京急・東京メトロ・相鉄・名鉄・近鉄・南海・京阪・阪急・阪神・西鉄）の2026年3月期決算概況および鉄軌道事業旅客輸送実績の調査を行いました。

大手16社の鉄軌道事業営業収益は、前年同期比4.3%の増収となり、営業利益は、賃金等の処遇改善による人件費や設備投資による減価償却費等の費用増により2.8%の減益となりました。

輸送人員は、訪日外国人（インバウンド）需要の活況や、外出需要の増加等もあり、前年同期比3.9%増の100億1百万人となりました。特に関西の鉄道会社においては、昨年のお阪・関西万博の移動需要の恩恵を受けた結果となりました。

しかしながら、コロナウイルス感染症拡大前の2019年度との比較では4.6%減となり、コロナ禍前の輸送人員を下回る状況が続いています。

調査結果は別紙のとおりです。

[2026年3月期 決算概況] (2025年4月1日～2026年3月31日)

《個別決算／16社合計》

鉄軌道事業営業収益	1兆8,073億円	対前期比	4.3%増
鉄軌道事業営業利益	2,855億円	〃	2.8%減
全事業営業利益	4,217億円	〃	0.5%増
全事業経常利益	4,217億円	〃	0.9%減

(参考) 連結決算／15社合計

売上高	9兆2,539億円	対前期比	0.9%減
営業利益	8,935億円	〃	19.8%減
経常利益	9,077億円	〃	19.4%減

※阪急・阪神は阪急阪神HDで1社

※詳細は、各社ホームページ等における開示情報をご確認ください

[鉄軌道事業旅客輸送実績] (2025年4月1日～2026年3月31日)

《16社合計》

100億1百万人 対前期比3.9%増 (対2019年度比4.6%減)

〔 うち関東9社 対前期比4.0%増 (対2019年度比5.1%減) 〕
〔 うち関西5社 対前期比3.9%増 (対2019年度比3.3%減) 〕

※対2019年度比：コロナウイルス感染症拡大前との比較